

年表

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
1988年 (昭和63年)	7月	がんセンターの設置が「静岡県地域保健医療計画」に位置付けられる	
1993年 (平成5年)	8月	石川嘉延 静岡県知事就任	
1994年 (平成6年)	7月	がんセンター設置に関する検討開始 (担当 古橋三明、鈴木東悟、山口建)	
1995年 (平成7年)	10月	静岡県がんセンター基本構想検討委員会設置	
	12月	「静岡県新世紀創造計画 1995-2004」策定。 がんセンターは県東部に整備と明記	
1996年 (平成8年)	3月	「静岡県がんセンター基本構想」策定。 建設場所は長泉町下長窪地先に決定	
	4月	大野耕一郎 がんセンター建設準備室長(初代) 就任、がんセンター建設準備スタッフ配置	
1997年 (平成9年)	3月	高松宮妃殿下建設地をご視察 「静岡県がんセンター基本計画」策定	
	4月	がんセンター建設準備室に改組(大野耕一郎 室長)	静岡県庁において検討開始
1998年 (平成10年)	12月	第1回静岡アジアがん会議開催、2003年度 以降は静岡がん会議として毎年開催	
		造成工事着工	
1999年 (平成11年)	4月	大須賀淑郎 がんセンター建設準備室長 (第2代)就任	
2000年 (平成12年)	2月	安全祈願祭挙行	
		2月9日 病院本棟建築工事着工	
	4月	がんセンター開設準備室に改組(大須賀淑郎 室長)	
2001年 (平成13年)	2月		静岡県が「富士山麓先端医療産業集積構想(富士山麓ファルマバレー構想)」策定(平成13～22年度)
		4月	がんセンター開設総室に改組(大須賀淑郎 総室長)
	6月		ファルマバレー構想推進協議会開催
2002年 (平成14年)	1月	名称を「静岡県立静岡がんセンター」に決定	
	3月	3月25日 病院棟、緩和ケア病棟、陽子線治療施設等主要施設完成	静岡県が第1次戦略計画を策定 (平成14～18年度)
		4月	初代総長・初代疾病管理センター長・初代研究所長 山口建、初代病院長 齋藤賢一、初代事務局長 萩原傳、初代マネジメントセンター長 鈴木東悟、初代看護担当副院長 戸塚規子 就任
	6月	「静岡がんセンター事業の設置等に関する条例」を県議会に上程	
		8月15日 病院開設許可	
	8月	8月28日 開院式(寛仁親王同妃両殿下ご臨席、静岡県知事、静岡県議会議長出席)	
		9月	9月1日 がんセンター局設置 初代局長 植田勝男 就任
	9月6日 診療業務開始(病床313床、初日外来患者数97人) 9月7日 長泉なめり駅開業 同駅とがんセンターを結ぶバス路線の運用開始		ファルマバレー構想推進検討会 「ファルマバレー宣言」策定
2003年 (平成15年)	3月	倫理審査委員会及び臨床治験管理室設置	ファルマバレー構想推進協議会で 「ファルマバレー宣言」公表 「ファルマバレー構想推進全体交流会」開催

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
2003年 (平成15年)	4月	小野寺恭敬 事務局長(第2代)、鈴木正広 マネジメントセンター長(第2代)就任	「ファルマバレーセンター」開設 「静岡県治験ネットワーク」構築
		小児がん患者と家族のための宿泊施設 「ひまわり」完成	静岡県「富士山麓先端健康産業集積構想推進 事業(富士山麓先端健康産業集積プロジェク ト事業)」開始
			静岡県「先進医薬普及促進事業」開始
			井上謙吾 ファルマバレーセンター所長 (初代)就任
	5月	病床数 403 床へ増床(90 床増床)	県東部地域(三島市・長泉町)が内閣府の先端 健康産業集積特区として「構造改革特区」に認定
			ホームページ開設
			「研究開発フォーラム」設置・運営開始(無料 会員組織・メールマガジン配信)
	8月	「地域がん診療拠点病院」指定(厚生労働大臣) 「出張がんよろず相談」開催(熱海市他9か所)。 以降、毎年実施	「ファルマよろず相談」開設
	9月	秋篠宮同妃両殿下、静岡がんセンターご視察	
10月	病院機能評価認定(Ver4.0) 陽子線治療開始		
12月	全国がん(成人病)センター協議会加盟承認		
2004年 (平成16年)	3月	静岡がん会議 2003 開催(テーマ「県民のためのがん対策」)。以降、毎年開催	
		第1回慰霊祭開催 参加者 691 人 以降、毎年春・秋に実施	
	4月		静岡県立大学大学院薬学研究院 「創薬探索センター」設置
			「都市エリア産学官連携促進事業(一般型)」 に採択(平成16~18年度)
	5月	病床数 465 床へ増床(62 床増床)	
6月	静岡がんセンター研究所棟建設工事着工	静岡県と東京工業大学、東京農工大学、早稲田 大学が包括的事業連携協定を締結	
9月	第1回「静岡がんセンター公開講座2004」開催 (全7回延参加人数 3110 人)。以降、毎年開催		
2005年 (平成17年)	2月	富士写真フイルム(株)と包括的共同研究協定 締結	
		堀内智子 疾病管理センター長(第2代)、壁下 敏弘 マネジメントセンター長(第3代)就任	静岡県「医療・健康関連産業人材育成事業」 開始(MOT セミナー他)
	4月	院内がん登録開始	
	5月	病床数 509 床へ増床(44 床増床)	「富士山麓産業支援ネットワーク会議」開始
7月		「かかりつけ湯協議会」発足、モデル施設認定	
		ニュースレター第1号発行	
11月	静岡がんセンター研究所棟開設	ファルマバレーセンター事務所移転 (静岡がんセンター研究所内)	
		ファルマバレーセンターコアメンバー 会議開始	
		静岡県が東京で開催する「ふじのくに交流会」 に出展開始	
2006年 (平成18年)	4月	小野寺恭敬 局長(第2代)、 大乗高 事務局長(第3代)就任	静岡県庁健康福祉部に 「ファルマバレープロジェクトチーム」発足
		5月	病床数 557 床へ増床(48 床増床)

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
2006年 (平成18年)	6月	「がん患者の口腔合併症と歯科治療講習会」 県東部地区8か所で開催	広域の新事業支援ネットワーク拠点重点強化 事業に採択(平成18～21年度)
		流政之氏より彫刻作品「EELA(イーラ)」寄贈	静岡がんセンター委託「静岡がん治験ネット ワーク構築(推進)事業」開始
	7月	ファルマバレープロジェクト成果発表会開催(東京)。以降、毎年開催	
	8月	「都道府県がん診療連携拠点病院」指定 (厚生労働大臣)	
	9月		静岡県が第1次戦略計画評価を報告
	12月	Web版がんよろず相談Q&A 公開	
2007年 (平成19年)	2月		企業受託「臨床研究推進事業」開始
	3月		静岡県が第2次戦略計画を策定 (平成19～22年度)
			文部科学省の都市エリア事業(発展型)に採択 (平成19～21年度)
			富士山麓産学官金連携フォーラム開始。 以降、毎年開催
	4月	宮城島好史 マネジメントセンター長(第4代)、 古田里恵 看護担当副院長(第2代) 就任	静岡県庁経済産業部に ファルマバレープロジェクトチーム移管
10月	保育所増改築落成式		
2008年 (平成20年)	3月		静岡新聞「風は東から」掲載開始 1回/年
	4月	齊藤民夫 事務局長(第4代)就任	篠原清志 新産業集積室長(ファルマ担当初代) 就任
		多職種がん専門レジデント制度創設	
8月	アストラゼネカ社(英国)と、抗がん剤の基礎研究・臨床試験に関わる非独占的包括契約を締結		
2009年 (平成21年)	4月	齊藤民夫 局長(第3代)、宮澤武久 事務局長 (第5代)、池谷洋一 マネジメントセンター長 (第5代)就任	増井浩二 新産業集積室長(第2代)就任
		外来患者用立体駐車場新設	
	5月	病床数569床へ増床(12床増床)	科学技術振興機構の「地域再生人材創出拠点の 形成」に採択(平成21～25年度)
	6月	全国初の病院立認定看護師教育課程開講。 以降、毎年開講	
	7月	川勝平太 静岡県知事就任	
	8月		「医療機器等開発テーマ実現化検討会議」開始
			「医療機器等可能性調査事業」開始
9月		医療を通じた社会貢献活動「メディメッセージ」 へ参加開始	
11月	病院建物に隣接して新管理棟増築完成		
2010年 (平成22年)	1月	電子カルテシステム更新(富士通からIBMに)	
	2月		ファルマバレー訪問団が、仏バイオクラスター・ 研究所等を訪問
	4月	小澤慎次 疾病管理センター長(第3代)就任	小櫻充久 新産業集積課長(第3代)就任
			静岡県・12市町補助金負担金「富士山麓ビジ ネスマッチング促進事業」開始
			静岡がんセンター委託「治験審査委員会運営業 務事業」開始
6月	「あなたの街のがんマップ」公開	中小企業庁の「川上・川下ネットワーク構築 事業」に採択	
		文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログ ラム(グローバル型)」に採択(平成22～24年度)	

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
2010年 (平成22年)	8月	皇太子殿下行啓、静岡がんセンターご視察	
	10月	世界トップの放射線治療臨床試験グループに加盟	
	11月	モンゴル大統領夫人が訪問、代表を務めるNGO「HOPE がんのないモンゴル」と、がんに関する相互協力の覚書に署名	
	12月	慶應義塾大学と包括的事業連携協定締結 総合科学誌「Nature(December 2, 2010)」に活動紹介	静岡県が第2次戦略計画評価を報告
2011年 (平成23年)	1月	玉井直 病院長(第2代)就任	
	3月	東日本大震災 医療救護チーム派遣 通院治療センターを移転・増床(2016年8月 化学療法センターに名称変更)	静岡県が第3次戦略計画を策定(平成23～32年度)
	4月	増田和義 事務局長(第6代)、 青木和恵 看護担当副院長(第3代)就任	
	9月	手術支援ロボットダ・ヴィンチ新規導入	
	12月	「がん遺伝外来」の開設	内閣府が「ふじのくに先端医療総合特区」を地域活性化総合特区として指定
2012年 (平成24年)	4月	石野真澄 事務局長(第7代)就任 患者家族支援センター創設 富士フィルムと医師の画像診断をサポートする「類似症例検索システム」を共同開発 慶應義塾大学との連携協定に基づく「連携大学院制度」開始	植田勝智 ファルマバレーセンター所長(第2代)就任
	5月	病床数577床へ増床(8床増床) 患者図書館拡張、患者サロン設置	
	9月	日本対がん協会「朝日がん大賞」受賞	
	11月	手術支援ロボットダ・ヴィンチの「大腸症例見学施設」認定	
	12月	静岡がんセンター創設10周年記念の会開催	
	2013年 (平成25年)	1月	病床数589床へ増床(12床増床)
4月		石野真澄 局長(第4代)、小櫻充久 事務局長(第8代)、滝順彦 マネジメントセンター長(第6代)就任 「特定機能病院」承認(厚生労働大臣) 「看護師修学資金貸与制度」創設	梅藤久人 新産業集積課長(第4代)就任
7月		看護実践能力強化施設「かるがも(シミュレーション)センター」運用開始 放射線治療の最新装置 True Beam/Varian 社製を導入	文部科学省の「地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)」に採択
8月		IVR用320列CT血管撮影装置導入	
2014年 (平成26年)	1月	マルチオミクス解析を用いたがんゲノム研究「プロジェクト HOPE」開始	
	4月	世古安男 疾病管理センター長(第4代)、 鶴田清子 看護担当副院長(第4代)就任 認定看護師資格取得後のポストプログラム「がん看護エクセレントプログラム(SCC)」を創設 大阪大学大学院と連携大学院制度を創設	
	7月	手術支援ロボットダ・ヴィンチの「胃領域の症例見学施設」認定	

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
2014年 (平成26年)	10月	静岡県東部のがん医療地域連携交流会開催。 以降、毎年開催	
2015年 (平成27年)	4月	小林真一 疾病管理センター長(第5代)、 内田昭宏 マネジメントセンター長(第7代) 就任	水口秀樹 新産業集積課長(第5代)就任
		病床数606床へ増床(17床増床)	
	患者家族支援センターに「初診入院支援室」、 「緩和ケアセンター」を追加設置		
	6月	病床数611床へ増床(5床増床)	
		国内初「AYA 世代病棟」設置 陽子線治療棟に隣接して放射線治療棟増設	
7月		静岡県が第3次戦略計画(第1次改定版)を策定	
11月	放射線・陽子線治療センター一体化		
2016年 (平成28年)	3月		「ファルマバレーセンター(静岡県医療健康産業 研究開発センター)」一部開所
	4月	「静岡がんセンター憲法8か条」 「新10カ年計画」策定	
		手術支援ロボット ダ・ヴィンチ Xi 導入(更新)	
	7月	院内保育所を新築(130人規模)	
	8月	「支持療法センター」開設(国内初)	
	9月		「ファルマバレーセンター」全面開所 静岡がんセンター研究所棟より移転
11月	病床数615床へ増床(4床増床)全床開棟		
2017年 (平成29年)	4月	小櫻充久 局長(第5代)、高橋満 病院長(第3 代)、池谷洋一 事務局長(第9代)就任	
	6月	「患者家族支援センター」の拡充	
	8月		「(一財)ふじのくに医療城下町推進機構」設立 大坪檀 理事長(初代)就任
2018年 (平成30年)	4月	高橋満 疾病管理センター長(第6代)就任	村松毅彦 新産業集積課長(第6代)就任
		「がんゲノム医療連携病院(全国100施設、 県内は当院含め3施設)」	「(一財)ふじのくに医療城下町推進機」構事業開始
			大須賀淑郎 副理事長兼専務理事(初代)就任 推進機構設立に伴う職名改正により、植田勝智 ファルマバレーセンター長(初代)就任
			滝順彦 事務局長(初代)就任
6月	山口建 総長、厚生労働省がん対策推進協議会 会長 就任		
9月	エスアールエル・静岡がんセンター共同検査 機構(株) 設立		
2019年 (平成31年)	2月	患者さんの理解を深める「処方別がん薬物療 法説明書」を作成	
	4月	内田昭宏 事務局長(第10代)、羽切圭 マネジ メントセンター長(第8代)、 飯沼むつみ 看護担当副院長(第5代)就任	「ふじのくに医療城下町推進機構」 公益財団法人化 三田功 新産業集積課長(第7代)就任
2019年 (令和元年)	7月	秋山靖人 研究所長(第2代)就任	長泉町と「ファルマバレープロジェクト推進 に関する覚書」を締結
		東京慈恵会医科大学大学院研究科看護学専攻 と連携を開始	
	8月	「特定行為に係る看護師研修機関」に指定 (厚生労働省)	

		静岡がんセンター	ファルマバレープロジェクト
2019年 (令和元年)	9月	「がんゲノム医療拠点病院」に指定	
	11月	「小児がん連携病院」の指定	
	12月		静岡県が山梨県と「医療健康産業政策に関する連携協定」締結
2020年 (令和2年)	4月	上坂克彦 病院長(第4代)就任	
		「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定	
「特定行為研修を組み込んだ認定看護師教育機関」に認定(日本看護協会)			
11月	「World's Best Specialized Hospitals 2022 (Oncology)」に選出(Newsweek誌)		
	強度変調放射線治療(IMRT)専用機を導入し、常時リニアック4台稼働体制に		
2021年 (令和3年)	2月		内閣府総合特区計画拡大(山梨県甲府市他6市町を計画区域に追加)
	3月	「日本版 がんゲノムアトラス(JCGA)」公開	モデルルーム「自立のための3歩の住まい」設置
		手術支援ロボットダ・ヴィンチを扱う対象診療科を拡大し、2台から3台体制へ(県内初)	静岡県が第4次戦略計画を策定(令和3～7年度) 清水町と「健康長寿の形成における連携」に関する協定を締結
	4月	内田昭宏 局長(第6代)、小澤和弘 事務局長(第11代)就任	「ふじのくに先端医療総合特区」に山梨県編入 小笠原彩子 新産業集積課長(第8代)就任 三田功 事務局長(第2代)就任
	7月		小櫻充久 常務理事(初代)就任
	9月	チーフレジデント(専門研修医)の処遇を改善、2022年4月より実施。	
	10月	国家プロジェクト AMED による”全ゲノム解析による患者還元体制構築研究”参画	
2022年 (令和4年)	4月	堀川俊 事務局長(第12代)、勝又成人 マネジメントセンター長(第9代)就任	
	11月		「医療田園都市構想」をテーマに サンフロント21懇話会東部地区分科会開催
	12月		「広域連携による地域発展に貢献するパートナーシップ協定書」締結